

ひだまり だまり

2021 Vol. 12

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌

令和3年3月1日 第12号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

も
く
じ

学校教育課程について	1
後援会長あいさつ、就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援（キャリア委員長）、就職内定状況	4
就職情報室を利用して	5
大学における「新しい日常」とは？—コロナ禍を超えて—（教務学生委員長）／ 学部長あいさつ／大学学部関係行事予定	6

学校教育課程について

昭和24年に秋田大学が設置されて以来、学芸学部から、昭和42年には教育学部、平成10年には教育文化学部へと名称が変化してきました。本誌をご覧いただいている皆様は、その変化を実際に経験し、さまざまな思いをお持ちになられていると思います。

教育学部時代に学生だった方々は、教員になるか、公務員になるのか、企業に勤めるのか、卒業を前にして悩まれたことと思います。現在では、学校教育課程に学ぶということは、教員になるという前提にあるということが以前より重要になってきています。

秋田大学概要には、「教育文化学部は、教員養成を担う学校教育課程と地域協働の核となる人材養成を担う地域文化学科の1課程1学科からなります」と記されています。

学校教育課程のなかには、教育実践コース、英語教育コース、理数教育コース、特別支援教育コース、こども発達コースという5つのコースがあります。コースの内容に応じて、小学校、中学校、特別支援

学校、幼稚園などの教員免許を取得します。「主免」と「副免」と言って、複数の教員免許を取得することも特徴のひとつです。これによって、児童・生徒についての理解が深まりますし、自らの適性を見出すこともできます。

学校教育課程では中学校教員免許も取得できません。コースの名称には科目名はありませんが、体育、音楽、美術を学ぶ学生たちもおります。今年度のコロナ禍の影響で、美術教育研究室では、長年続いていた卒業制作展が開催できない事態になりました。また音楽教育研究室では演奏会を開催しましたが、公開はできませんでした。しかし、教育実践コースのなかで、学生たちはしっかり活動しております。

社会の変化に対応しながら教育を考え、高い専門知識や技能と豊かな教養をそなえた教員の養成のため、今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校教育課程主任 遠藤 敏明



教育実践コース音楽研究室では、集中授業で行われた「基礎器楽」で三味線を学びました。受講を希望した1年次から4年次まで参加しています。



教育実践コース美術研究室で木材工芸を卒業制作に選んだ馳尾幸太郎さんは、天板が上下するテーブルを制作し、論文をまとめました。

自分の夢に向かって

教育文化学部後援会 会長 大堤 光司

学園町内では、柔らかい春の日差しが降り注ぎ、日ごとに暖かさを増してきます。

後援会会員及び教職員の皆様におかれては、日頃から当会へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、毎年行っている教育文化学部後援会としての理事会・総代会・地区会の開催は出来なかった（書面で実施）ものの、就職情報室の運用、採用試験・公務員・企業試験等の支援など全てではありませんが、オンライン等で行うことができました。

本来ならば東京オリンピック・パラリンピックが

開催されて日本中がスポーツの熱狂に包まれながら、感動や勇気を味わっているはずなのですが、世界中の新型コロナ感染により、あちらこちらで行事やイベントも中止になってしまいました。学校施設も4月からの行事や授業も延期・中止が相次ぎ、5月からはオンラインでの授業になり、学生達の親睦が少なくなり、社会で大きな問題として取り上げられました。

こうした厳しい状況の中でも、たくましく生き抜いた卒業生の皆さんは、今、新しい社会への旅立ちに胸を高鳴らせているはずで、大きな成長の姿の陰には、自分自身の努力があるのはもちろん、親や教職員、その他大勢の人の支えがあったからです。感謝の心を忘れず、自分の夢に向かって頑張りたいと思います。そして、ここ秋田大学で学んだことを誇りに、たくましく活躍することを期待しております。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

令和3年3月卒業の学生4名からメッセージをいただきました。保護者の方、学生のみなさんに参考になる内容です。

コロナ禍での教員採用試験

教育文化学部 学校教育課程

教育実践コース 宮本 晃徳

私は秋田県の教員採用試験を受験し、小学校教諭として合格を頂き、4月から秋田県の小学校教員として働きます。私が教員を目指したきっかけは数多くありますが、特に大きかったものは教育実習です。実習中の子どもたちの笑顔や、先生方が授業の準備を一生懸命にされていた姿に強く感銘を受け、私も教員として働きたいと思いました。

教員採用試験の対策を本格的に始めたのは、大学3年生の夏でした。筆記試験の対策は、受験する秋田県の採用試験の過去問から出題傾向を掴み、それに合わせて学習の計画を立てました。また、試験勉強は質だけではなく、量も大切にしたいと思い、就寝前や通学時の隙間時間にもテキストやノートを見返すようにしました。

4年生の4月になると、新型コロナウイルス感染症対策として、大学に通うことが制限され、家で過ごすことが多くなりました。採用試験においても、予定されていた試験科目が無くなったり、試験内容が変更されたりして、計画通りに学習を進めることができず、不安に苛まれました。しかし、友人とテレビ通話で勉強方法や不安を共有し、心を軽くすることができました。

2次試験の対策は、時期的に感染症対策の規制が緩和され、自主ゼミでは対面形式で面接と模擬授業の対策が行われるようになりました。先生方や友人から沢山の助言を頂き、教員を目指したい理由や、どのような教員になりたいのかが明らかになりました。

振り返ってみると、教員採用試験を乗り越えることができたのは、多くの人に支えて頂いたからだと思います。好きな言葉に「大切なものは目に見えない」という言葉があります。コロナ禍で直接会うことが困難であっても、先生方や就職情報室の職員の方々、友人らとの目には見えない確かな繋がりがあったからこそ、自分なりに心を燃やして頑張ることができました。

教員として働いてからも、人と繋がることの大切さを心に留めながら、日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

卒業間際に思うこと

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース 宮原優季乃

この度、地方公務員に就職が決定いたしました。大学に入学し、学びたかった心理学を学び、それを活かした仕事につけることをとても嬉しく思います。とは言っても正直に申し上げますと、私は当初大学院進学を希望していました。色んな紆余曲折を経て、就職を決めました。大学に入学する前から決めていた進学を諦めた時は、それはもう人生のどん底に思えました。しかし、卒業を目前としている今では、悪くないと思っています。

では、なぜ私がそのような心変わりをしたのでしょうか。

それは、「今の自分に無駄なことはない」と思えるようになったからです。辛かった講義も、楽しかったサークル活動も、その時々感じた私の感情も、全てが集合して今の私になっている、無駄なことはなかったと就職活動の

時に気づかされました。

在校生の皆さん、無理をしるとは言いません。ですが、その時に自分が思ったことや決断を大切に、目の前のことに向き合ってください。こう言うと難しいかもしれませんが、端的に述べると、講義もサークル活動も、自分のやりたいことも自分の持てる力の限り、頑張ってください。時には嫌なことが待ち受けているかもしれません。ですがその場面から逃げることを選ぶとしても、その時の自分の最善を選んでください。無駄かもしれない出来事も感情も自分の糧になると私は信じています。何だったら、嫌なことは自分の糧にしようと思って生活をしています。この先私はまた様々な困難な場面に直面し、またその度に悩むのだと思います。その時は、就職活動も含めた大学生活を思い出します。

最後に健康に気をつけて大学生活を楽しんでください。

就職活動で感じたこと

教育文化学部 地域文化学科

人間文化コース 深沢小百合

私は9月の初旬に、第一志望であった秋田県内の公益財団法人から内定を頂くことができ、満足のいく形で就職活動を終えることができました。私が本格的に就職活動を始めたのは、大学生協の就活講座を受け始めた3年次の6月頃でした。さらに新たな経験を積むため、県内企業5社のインターンシップにも参加しました。

そして4年次になり、選考を受けようと思っていた企業に早めにESを提出し、面接を受けた結果、6月の初旬に1つ目の内定を頂くことができました。初めての内定を頂いた時には、嬉しさを感じると同時に安堵しました。その後も数社から内定を頂いたことで、就職活動に対する自信がついていったと思います。そして、最後までモチベーションを維持しながら、第一志望の2次試験まで諦めずに就職活動を続けることができました。

就職活動を振り返る中で、私が特に重要だと感じたことは3つあります。1つ目は、早めに計画性をもって取り組むことです。就職活動が本格的に始まる前にESの準備や面接対策などを着実に進めていたことが、円滑な就職活動へと繋がったと思います。2つ目は、面接では自分に正直に、過去の経験や学んだことを飾らずに話すということです。私は当初考えていた自己PRを、自分の特長を的確に伝えるために再度考え直し、最終的には私にしか話せない独自性を持ったものに変更しました。そのため、面接の際にもスムーズに自身の経験や考えを話すことができました。そして3つ目は、就活の軸をしっかりと持つことです。私は、秋田県内で地域や人の役に立つ仕事をしたいと考えていたため、勤務地や仕事内容を重視しました。そこで、就職活動を進めていく上で自分の価値観や判断基準を明確にしておくことの重要性を改めて感じました。就職活動は長く大変でしたが、良い経験になったと思

います。

春からは新たな環境で働くことへの希望や期待を胸に、これまで学んだことを活かしながら、感謝の気持ちを忘れず、毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。

私が大学院に進んだ理由

教育文化学部 学校教育課程

特別支援教育コース 嶋崎 友貴

春から、本学の教職大学院・発達教育・特別支援教育コースに進学することが決まりました。この進路選択をするにあたっての経緯や進路実現に向けた活動を述べます。

私が高校性だった頃、勉強は全くせず、また、身体も弱かったため遅刻や早退を繰り返す毎日でした。このような状況にも関わらず、私は「学校の先生になりたい」という夢があったため、高校卒業後は自宅で浪人をし、本学を目指すことを決めました。しかし、自宅での浪人生活は、順風満帆なものではありませんでした。コンビニや寿司職人、ホテルスタッフなど色々なアルバイトをしながら受験勉強をし、毎年センター試験を受け続け、本学に合格するまで6年の歳月を要しました。

石の上に三年以上もいたわけですから、「秋大生」になれたことへの喜びは相当なものでした。何より、本学の講義や研究室のゼミでは、学生同士で意見や考えを出し合いながら学びを進めていくため、「誰かと一緒に学ぶ」とへの喜びも感じることができました。本学で出会った仲間たちと一緒に学ぶことを通して、私は大きく成長することができ、大変有意義な学生生活でした。

大学4年次になり、進路実現に向けて動き始めました。もともと教員志望だったため教員採用試験を受けることは自然な流れでしたが、大学院に関しては、私の年齢的な面と経済的な事情から果たして適切なのか悩みました。その中で、学校現場での実践的な学びの機会は早かれ遅かれ訪れますが、理論的なことを、腰を据えてじっくり学ぶ機会はそうそうないだろうという考えに至りました。目の前にある「学びの機会」を大切にしたいと思い、大学院の受験を決心しました。

大学院の試験対策は、教員採用試験の内容と共通するため、スタージュや教職自主ゼミでの学びの充実化を図りました。学生や先生方の意見、助言から、自身の思考を深めることができました。さらに、ゼミの指導教員や就職情報室の方々からも手厚い支援を受けたことで、教員採用試験及び大学院試験どちらも無事に合格することができました。また、大学院進学への土台となる本学での学生生活は、女手一つで育ててくれた母の存在や、学生支援・就職課、保健管理センターの方々からのサポートがなければ成り立っておりません。多くの方々への感謝の気持ちを、これからの学びに反映させ、よりよい教育の実現に向けて活動していきたいと考えています。

教育文化学部の就職支援と学生の就職状況について

キャリア委員会委員長 篠原 秀一

秋田大学教育文化学部キャリア委員会は、学部独自の就職情報室と大学本部学生支援・就職課と連携し、教員が構成するキャリア委員会と事務方により学生の就職を支援しています。このキャリア委員会は、支援の実働的には教職・公務員・企業の3部門に分かれ、基本的には在学生全員を対象とし、重点的には3年生からの就職活動学生を支援します。特に、学部就職情報室の役割は大きく、常駐の事務系スタッフ2名が随時訪ねて来る学生の就職相談に対応します。この就職情報室こそ、学部就職支援の要となる拠点で、就職志望学生相談の場であり、登録学生への就職情報・支援情報がメールで適宜発信される場です。皆様から寄せられた後援会費からの補助で運営が可能となっております。今回も御礼申し上げます。

昨年から今年にかけては、学生たちの就職活動も私たちの就職支援も、「新型コロナウイルス感染拡大防止」の影響を受け、就職試験も就職支援研修会なども多くが遠隔式会合となっております。この1年は就職に意欲的な学生たちも、例年よりもはるかに多くのメール等を各所より受け取るせいか、折角の「キャリアガイダンス」や「先輩と語る会」などのお知らせを見逃すことが多いようで、時にその参加者が例年よりも少なくなりました。今後は、「新型コロナウイルス感染拡大防止」に気をつけつつ、できる限りの就職支援機会の確保とその広報に努めて参ります。

教職部門では、学校教育課程の教員を目指す学生を主対象とし、正課での学習を補助するかたちで就職支援いたします。今年度の「スタージュ」「教職自主ゼミ」は遠隔式で随時開催され、昨年の4年生春対象「スプリングキャンプ」が残念ながら中止、3年生秋対象「オータムキャンプ」は学内にて気をつけながらの対面式日帰り2日の研修として実施いたしました。来年度は外部合宿が無理で学内実施であっても「スプリングキャンプ」も「オータムキャンプ」もなんとか実現させたいと存じます。「オータムキャンプ」は合格した4年生の助言を活かし、3年生が教員採用試験準備を基本から本格化させる契機であり、「スプリングキャンプ」は現場経験の豊富な実務家教員達の見識と助言も活用し、3か月ほどに迫った教員採用試験対策を個々に練られる機会です。また、来年度も、秋田県等の地方自治体の教育委員会に対

して、キャリア委員会が一定水準以上の学生若干名を「大学推薦」学生として推薦できます。それら推薦された学生たちが2次試験に必ず合格するとは限りませんが、1次試験が免除されます。

公務員部門では、地方自治体や各省庁の就職説明会・インターンシップについて、在学生に随時頻繁に詳細な情報を提供するほか、公務員部門教員が面接試験対策を希望者に個別に対応します。公務員を目指す学生には、就職説明会等への参加を奨めます。公務員の仕事は従来以上に幅広く、必要とされる能力も企業で働く人たちに近くなる傾向はさらに加速したようです。したがって、公務員試験自体も従来型「公務員」としての知識だけを問うのではない、まるで企業のような採用試験も増えています。

企業部門では、秋に主として3年生を対象とする「就活スタート講座」を開くほか、3月初めには全学共通「秋田大学ジョブ・フェア」を後援します。普段は、各学生の就職活動に合わせ、エントリーシートの相談・添削、面接試験対策を個別に企業部門教員が中心になって対応します。企業への就職活動についても、機会があれば、随時募集される就職体験の場、企業説明会の場を少しでも活かし、その働く場・企業に関する直接的情報を集めるべきです。「小粒でもピリリ」企業は秋田県内も含めてあちらこちらに隠れています。企業就職の活動は、今後も従来以上にスケジュール前倒しが求められます。

今年度卒業生の就職率は県外就職希望者を除けば、例年と変わりませんでした。しかし、残念なことに、県外企業就職志望者は苦戦し、これから3月末までに「新型コロナ」を理由とする内定取り消し状況が生じる場合があるかも知れません。以上の就職未定学生たちや不測の状況にも、できる限り、学生たちに寄り添って支援し続けたいと思います。

特に現3年生が、より積極的に学部主催就職説明会等に出席してもらえるように、学部就職情報室を頼りにしてもらえるように、在学生には適宜、質の高い最新情報と助言と支援機会を提供すべく、工夫を重ねて参ります。今後も教育文化学部への御支援を、どうかよろしくお願い申し上げます。

2月末データ

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	111	4	96	34	62	82	27	55	85.4	79.4	88.7	
	地域文化学科	106	5	89	28	61	78	22	56	87.6	78.6	91.8	
	小計	217	9	185	62	123	160	49	111	86.5	79.0	90.2	
教育学研究科	21	0	19	10	9	17	9	8	89.5	90.0	88.9		
合計	238	9	204	72	132	177	58	119	86.8	80.6	90.2		

就職内定状況

就職情報室を利用して

教育文化学部 学校教育課程

理数教育コース3年次 高沢 伸之

初めて就職情報室を利用したのは3年生の10月ごろです。11月のサークル引退と同時に教採に向けて本格的に動き出そうと考えていたときに何から動き出せばよいか、何を勉強したらいいのかさっぱりわかりませんでした。自分には教採に関する正しい情報が必要だと思い訪れるようになりました。ここには自分が欲しかった情報があります。例えば本校の先輩方の教採試験の報告書がほぼ全国にわたってあります。(受験した先輩方が私たち後輩にアドバイスを書き残してくれています)ここに通うようになってからは情報を頼りにやらなきゃいけないことなどが分かるようになりました。正しい情報は時に道標になります。

就職情報室には親身なって様々な相談ののって下さる職員さんがいます。自分に必要な情報があります。何からはじめたらいいのかわからない方、先行きや将来を考えたい方など一度訪れてみるとヒントを見つけられるかもしれません。

教育文化学部 地域文化学科

地域社会コース3年次 池田 咲希

私が初めて就職情報室を訪れたのは、2年生の後期です。3年生になり、本格的に就職について考えるようになってからは何度も利用させていただいています。就職情報室では、過去に就職活動を終えた先輩方の報告書や各種試験対策用の本を閲覧させていただきました。また、職員の方々に就職に関するアドバイスや情報をいただきました。



就職情報室は、教育文化学部3号館1階にあります。学生のみならず、是非お気軽にお越しください。

就職情報室を利用したことで、就職活動は1人で抱え込まなくて良いと感じることが出来ました。いつ訪れても親身になって話を聞いてくださる職員の方々や過去の先輩方が残してくれた情報がとても心強かったです。1・2年生の時に参加した「先輩と語る会」も就職観が大きく広がるきっかけになりました。

就職について少しでも気になることが出てきたら、就職情報室を訪れてみてください！就職に関する最新の情報を頂けるガジェットメールの登録もおすすめです。行動に起こしてみることで少しずつ就職活動の方向性が見えてくるはずです。

教育文化学部同窓会 「旭水会」の仲間たち

旭水会会長 千葉 昭



平成23年3月11日、未曾有の東日本大震災・福島原発事故から10年。令和3年3月の卒業祝賀会は昨年に続いて新型コロナウイルス感染拡大が収束せず3

度目の中止になってしまいました。

昨年は、卒業式と4月の入学式も緊急事態宣言下で中止になりました。晴れの門出となるはずだった卒業生や大学院修了生にとっては友人や家族と喜びを分かち合う場もなく社会へ飛び立ちました。

また、厳しい入試を勝ち抜き喜びと希望に満ちた新入学生にとっては、その心意気を表現する大学のキャンパスが閉ざされていて立ち入ることが出来ませんでした。オンライン・ZOOM等での遠隔授業を続けざるを得なかった皆さんの心境は如何ばかりだったでしょうか。

「旭水会」入会の機会がなく卒業された皆さんや新入生の保護者説明会で本会の活動や意義等を理解していただく場がなかったことで同窓の絆が薄れることを心配しています。

入学後の学生の皆さんには、旭水会の準会員として同窓会誌「旭水」の配付や学内外の体育・文化活動への助成や協賛も実施しています。また、学生の海外留学や海外研修基金の支援や学生の生活支援のための寄附金提供も実施しています。

「旭水会」は、学校教育課程・地域文化学科双方の同窓会です。新入生から在学生・大学院生そして卒業された同窓の仲間、皆さんの応援団です。大いに頼りにしてください。

大学における「新しい日常」とは？ —コロナ禍を超えて—

教務学生委員長 林 正彦

令和2年度は新型コロナウイルスによるパンデミックの中での異例の1年となりました。大学もオンラインのみによる授業という未経験の授業様式に直面して慣れない対応を強いられました。ワクチン接種が始まって季節が進めばコロナ禍は次第に沈静化し、ある程度の「日常」は戻ってくるでしょう。しかし、大学における「新しい日常」は本質的に異なるものになるかもしれません。いいえ、そうしなければなりません！

最大の変化はデジタル社会への変容です。「デジタル」と聞くと冷たいイメージを持たれるかもしれませんが、デジタル技術の進化と共にわれわれはただの文字列や数字だけでなく、音声・映像・手書き文字などをリアルタイムで相手に届けることが可能になりました。オンライン授業でタブレットに手書きで行う「板書」は、黒板での「板書」とそれほど遜色がないと思われまます。(文字の汚いのは別問題ですが。) デジタル技術の進化は無機質で冷たい情報を人間的な温かさのある情報へと変化させているとも考えられます。ただし、現状でオンライン授業を対面授業の替わりにするには課題も多く存在します。最大の課題は表情やジェスチャーといった非言語的コミュニケーションだと思えます。ネットワーク容量やプライバシーの問題から学生さんの顔や手元を送信することは、まだまだ困難です。これらが技術革新によって可能になるのか、あるいはわれわれをリアルな世界につなぎ止める最後の杭になるのかは分かりません。

今年間違いなく、デジタル技術を用いて大学生生活を変革する「元年」になるでしょう。令和3年度の新入生からノートパソコンの必携化が始まります。在来生にとっても今年度同様にオンライン活用は重要になってくると思えます。学生さんは、ツールを用いて講義内容をパソコンに取り込むようになるのか、それとも、板書を手書きでノートに写し取る行為に秘められた意味を再発見することになるのか、少しわくわくしながら、新年度を楽しみにしています。



学部長あいさつ

学貴日新

教育文化学部長 佐藤 修司

この言葉は学部の教育理念を表すものです。本学部の前身である秋田師範学校の卒業生で、京都帝国大学教授となり、東洋史学の大家であった内藤湖南(1866-1934)が、1930年保戸野校舎新築落成記念として母校に贈った扁額に書きしたための言葉です。1982年に当時の工藤綴夫学部長はこの言葉の改題の中で、「学びて日に新たなるを貴ぶ」と読むことを提案し、人の子の師たらんと志す者はまず学問的研鑽と創造の業にいそしむ者でなければならないと述べています。そして、学問的探究によって日々新たな自然観や人生展望を得られることを悦び、多様な価値観を自らのものとするにより、ゆとりある豊かな心をもって生きることの幸せを味わいたい、そのような学習態度を身につけた者のみが、人の子が持つ多様な資質や才能を発掘し励まし導いて、その全面的な開花発達を促すことができる。この工藤元学部長の言葉は学ぶこと、教えることの不易な部分を表しています。Society5.0へと向かう大きな社会的変動の時期、そして、コロナ禍にある今こそ大事なという言葉です。

大学・学部関係行事予定 (令和3年3月～)

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 1日 春季休業終了
- 4月 2日 在学生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 7日 新入生ガイダンス
- 4月 8日 前期・第1クォーター授業開始
- 6月 1日 創立記念日
- 6月 9日 第2クォーター授業開始
- 8月 8日 夏季休業開始(9月26日(日)まで)
- 9月 30日 前期終了
- 10月 1日 後期開始
- 10月 1日 後期・第3クォーター授業開始
- 11月 29日 第4クォーター授業開始
- 12月 25日 冬季休業開始(1月5日(水)まで)
- 2月 9日 春季休業開始(4月3日(日)まで)
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部 後援会情報誌



令和3年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
地域連携委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊

<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>